

JISS

2012

[特集]
ロンドンオリンピックに向けて

[特集]
第8回JISSスポーツ科学会議
～JISS 10年の歩みとこれから～



理事長就任にあたって

独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長
河野 一郎



スポーツ界が踏み出す新たな一歩

理事長就任にあたって一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、スポーツ界にとって、節目の年になりました。嘉納治五郎先生が、大日本体育協会を創設してちょうど100年目にあたり、7月には天皇・皇后両陛下のご臨席を賜り、また、ジャック・ロゲーIOC会長も参列され、スポーツ界をあげた記念式典が挙行された中で「スポーツ宣言日本」の発表がありました。

また、6月にはスポーツ振興法が50年ぶりに全面改正され、スポーツ基本法が8月に施行されました。

そして、今年には、日本のスポーツ界が101年目の新たな一歩を踏み出す飛躍の年となることもロンドンオリンピックが開催され、スポーツに注目が集まる1年となる

るでしょう。

我々、日本スポーツ振興センター（NAASH）においても、スポーツ基本法及びスポーツ基本計画に沿った活動を具現化する役割が求められており、今後、NAASHの日本スポーツ界における責任はますます重くなると考えております。現在も、NAASHは日本のスポーツの推進のための様々な事業を実施しているところですが、国立競技場の改築とスポーツ振興くじtototoの売上の増加及び効果的な助成の実施については、大きなテーマとして捉え、取り組んでいきたいと考えています。

ロンドンオリンピックに向けて

国立スポーツ科学センター（JISS）については、ロンドンオリンピックに向け、トップアスリートに対する貢献度をさらに高めていく必要があると強く思っています。JISSが受託し、国が進める『チーム「ニッポン」マルチスポーツ事業』においては、各競技団体との連携のもとで行ってきたサポートや、筑波大学を中心に研究活動を進めてまいりました。その成果をいかなく発揮できるよう、ロンドンオリンピック本番に向け、これからも日々一層努力していく所存です。

また、ロンドンオリンピック時に設置するマルチサポート・ハウスについて、現在、開設へ向けて、日本選手団の活躍を支える準備を整えつつある状況です。マルチサポート・ハウスは、「情報戦略や医・科学サポートの拠点」をコンセプトとし、分析やコンディショニング、リカバリーなどを中心に、サービスを展開する予定です。

さらにNAASHとしてもロンドンオリ

ンピック対策本部を設け、日本選手団の活動をトータルにサポートしていきたいと考えています。

スポーツを通じて強固な社会組織を

昨年、「NAASHソーシャル・キャピタルプログラム」（NAASH及び各事業において企画・実施する、「ソーシャル・キャピタル」と呼ばれる、スポーツを通じて「信頼」「規範」「絆」が強固な社会組織を育むことにつながる活動の総称です。）の二つとして、柔道の谷本歩実さんを「SPORTS JAPAN アンバサダー」に任命しました。

谷本さんには、「SPORTS JAPAN」の理念である『スポーツにもっと出会う国へ。もっと勇気をもらえる国へ。みんながスポーツで笑顔になれる、そんなニッポンをつくろう。』のメッセージを広く国民の皆様にお伝えするメッセージャーとして活躍していただく活動をスタートしていただきます。

前出のスポーツ基本法では、スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略としてスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、我が国の発展に寄与することが謳われていますが、今夏に開催されるロンドンオリンピックにおける成果は、スポーツ界のみならず、日本の活力を高めるために大いに寄与すると考えております。

NAASHは様々な事業を通して、コーポレート・メッセージである「未来を育てよう。スポーツの力で。」に込めた「明日への力にあふれた日本の実現」を国民の皆様と一緒に目指して参ります。一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。